

市税収入減で黒字化はさらに先送り ～平成22年度中期財政見通し～

市では、財政運営上の指標の一つとして、毎年度当初予算編成後に中期財政見通しを作成しています。中期財政見通しは、市の財政運営方針を定めた中期財政計画（平成19年策定）の一部で、比較的近い未来の財政推計を行うことで財政運営上の課題等を明らかにする役割を担っています。

推計方法は、中期財政計画の運営方針をベースに、これまでの傾向と直近の当初予算を基礎に将来値を算出するという基本的な手法に加え、「義務教育施設の改修計画」などの大型事業の計画数値を反映させ、更に具体的な推計となっています。

■条件

- ◆基礎数値 平成22年度当初予算
- ◆期間 平成23～27年度
- ◆会計区分 一般会計

■推計の結果

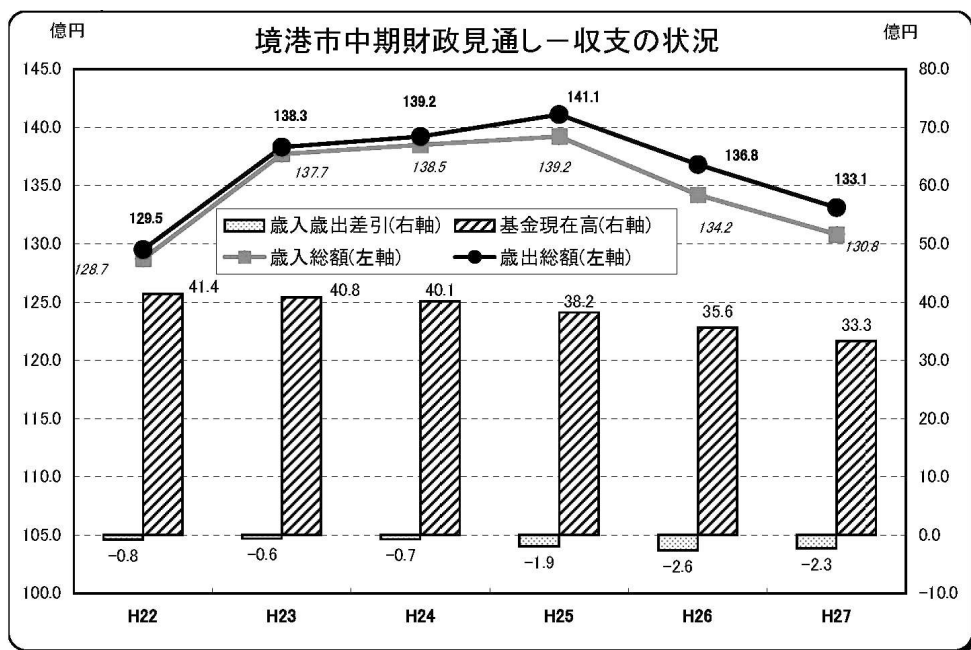
収支の状況は、今回の推計では経済不況の影響を受け税収等が大幅に減少したことにより、前回推計と同様に推計期間中の黒字転換は図れない見込みとなりました。（黒字への転換は、推計期間後の平成32年度となり、前回推計よりさらに4年後退しています。）

しかしながら、基金（貯金）残高は平成26年度末で前回推計より3億円増額しており、また、義務教育施設の改修や中海護岸整備事業などの大型事業の計画数値を反映させた上でも、各年度の財源不足（赤字）額は、最大でも約3億円程度であり、現在の基金（貯金）の残高を考慮すると、財政運営に支障をきたすようなことはありません。

今後も引き続き、中期財政計画の運営方針を遵守し、中長期的な視野に立った規律ある財政運営を行ってまいります。

◎問合せ先 財政課財政係

（☎47・1011）



さがいみなとの



職員初の工学博士

本市職員で建設部管理課課長補佐の灘英樹さん（47歳）が、本年3月に学位の最高位、博士号（工学）を取得し、卒業式・学位記授与式では、総代として壇上に上がりました。

灘さんは仕事の傍ら土曜・日曜や有給休暇を利用しながら鳥取市にある鳥取大学大学院工学研究科に4年間、300回近くも通い研究を続け、大学院を修了しました。

研究のテーマは、「人口減少高齢化社会における小規模自治体の持続可能な下水道経営に関する研究」で、今後、人口減少高齢化社会が訪れる中で、重要な社会基盤整備の1つである下水道事業がどうすれば持続的かつ安定的に継続していけるのかについて財政面はもとより、利用者への便益などあらゆる視点から検討・分析が行われた内容となっています。

この研究は、今後の本市にお

職員紹介

ける下水道事業運営に寄与することのみならず、全国の小規模自治体の将来における下水道事業運営に関し参考となる貴重な研究として、その功績が評価され、5月28日に、社団法人土木学会より平成21年度土木学会賞（論文賞）が贈呈されました。

土木学会賞は土木学会創立後6年目の1920（大正9）年に「土木賞」として創設されました。以来、大戦終了後の1945年から1948年までの余儀ない中断はあるものの、80余年の伝統に基づく権威ある表彰制度です。

